

発行元：新島村農業委員会事務局（新島村産業観光課内） ☎（5）0284（直通）

農地の利用状況調査を実施しています

農業委員会は、遊休農地の発生防止を目的として、「毎年の農地の利用状況の調査」が農地法第30条で義務付けられています。村では夏〜秋頃にかけて、農業委員と推進委員がこの調査のため、皆さんの畑に立ち入ることもありますので、ご了承ください。

なお、この調査で「利用されていないと思われる畑（不耕作地）」に該当した農地の所有者に対しては、**年明け頃に利用意向調査を送付し、今後の農地の取り扱いについてお聞きすることもあります。**その際は、ご協力をよろしく願います。

※ご了承ください※

利用状況調査は人による外観目視調査のため、境界が不明確な農地については正確な結果とならない場合もあります。また、「**農地が利用されている状態**」とは、「**肥培管理のされた農地の状態**」をいうため、**椿を捨てるだけの農地や、雑草と作物が混在して植わっているような畑などは「不耕作地（＝利用されていない農地）」と判断されてしまうことをご了承ください。**

◀ 不耕作地の例



「SNSを活用した販売促進と農業の可能性」

妻の聡子は農家になるのが大人になってからの夢でした。夢を実現する大きな決断のきっかけとなったのはSNSです。現在スマートフォンが普及して日本でも急速に利用が増加しており、妻がメインで農業に使用している「インスタグラム（以下IG）」は現在、日本国内だけでもユーザー数3千3百万人（世界でのアクティブユーザー数は十億人）。特に多肉植物は「花き」ということもあり、お金をかけて宣伝しなくても、IGのような写真がメインのSNSは理想の広告媒体となります。

「売りたい」と「欲しい」を場所や時間にとらわれず叶えてくれる。IGで販売場所の告知をすると、卸先に直接フォローさんが買いに行ってくれる。お客様の声や直接生産者に届く。全国各地でそれが可能になるのですから、こんなに嬉しい事はありません。海外からも問合せを頂きますが、日本語しか出来ないのが残念です。きちんと英語を勉強しておけば良かったなと悔やまれます。

ただユーザーが多いからこそたくさん「多肉植物」のカテゴリに埋もれてしまうことがあります。顧客が付くまではとにかく「良苗を育てて知名度を上げる」作業に2年間を費やしていました。「ブランド力の向上」です。その下積み2年間で同じ志を持つ方などと交流し、沢山情報交換出来るのがスキルアップに繋がったようです。それも全て新島に居ながらにして、SNSを活用して出来た事です。



▲カラフルな多肉植物の寄せ植え

今までは離島だから出来ないことがたくさんありましたが、この先はそんな事も減ってくるのかもしれない。世界中を一瞬でつなぐ媒体を利用して「日本」の「新島」から安全で高品質な農作物を消費者の手元まですぐに届けることが出来る時代がもう来ています。世界的に日本の農作物は高品質で人気です。新島のおいしい野菜や果物は、コロナ禍においての「おうちごはん」の人気者になると私は思います。「新島ブランド」の農産物がネット上でトレンド入りする日がくるのではないかと。こんな時代だからこそ、村の農業の可能性を感じずにはいられません。

（農業委員 公文 宏司）

※なお現在は、受注数に生産が追いつかないため、多肉植物の販売は行っていません。SNSで「いいね」を頂いたので、

「住民の農業体験」



例年、焼酎「地鉈」用のあめりか芋の栽培を行っていましたが、今年は新型コロナウイルスで販路が無くなってしまったため、いつもと違ったやり方を試行錯誤しながらやっています。

その一つが住民を巻き込んだ農作業体験です。農業の大変さだけでなく、達成感や充実感を感じてもらえるようサポートしています。夏野菜はトマトとピーマンが豊作で、喜んでいただくことができました。

また、アドバイザーとして農作業にかかわると、違った発見をすることができました。

天気が不安定なため、肝心のあめりか芋のできも不安ではありますが、しっかりと面倒をみて、時期が来たら「芋ほり体験」や「店頭販売」など、今年はおめりか芋を島のみなさんに広められるようにしていきたいと思えます。もし、ご興味がありましたら、一緒に体験農業してみませんか。
(農業委員 奥山 敏仁)



▼あめりか芋の畑

今年のお盆期間の新島は新型コロナウイルス感染症の影響で少し様子が違っていましたが、先祖を迎える準備はいつもと変わりません。何気なく祀っていたお盆飾りを改めて眺めると、地域の特色を感じました。

自分の育った茨城では、蓮の葉に刻んだ茄子と胡瓜とお米を混ぜてお墓に、胡瓜と茄子に足を付け仏壇にお供えしました。もう三十数年前の事で細かく覚えていませんが、階段状の祭壇を毎年組み立て、提灯が回っていたのを記憶しています。

自分の嫁いだ家は、引継ぎする前に祖母が亡くなってしまい、形だけそれらしくしてきました。13日には十団子と四つ団子1対、14日には豆の御飯に竹をさし12個、15日は四つ団子を祀り変える。迎え火と送り火は、団子とお香と線香を持って浜へ。玄関先に灯籠を置き、迷わず帰ってこられるよう道案内、盆中はお膳を祀る、等。理由や意味は考えてもみませんでした。

写真を撮らせて頂いた方に飾りについて聞いてみることに

若郷のお盆飾り

多少の違いはありましたが、基本は同じ。物流が今ほど発達していない頃、畑で収穫した野菜等をお供えしていたようです。「果物などをたくさんお供えするようになったのはつい最近(先輩方にとっていは)だよ」とおっしゃっていました。時間ができたら、飾りの意味をもっと調べたいと

思います。島の農業は食べていく為の物でしたが、ご先祖様にお供えする為に野菜を作ったこともあるようです。『自給的農業』違う意味でここに来てきた見直されているような気がします。

(農業委員 植松 由美子)



▲近所の方のお仏壇その1



▲近所の方のお仏壇その2